



リリースノート

TRIMBLE ACCESS™ソフトウェア

バージョン 2014.10
改訂 A
2014 年 4 月



Legal Information

Trimble Navigation Limited
Engineering Construction Group
935 Stewart Drive
Sunnyvale, California 94085
U.S.A.
www.trimble.com

Copyright and Trademarks

© 2009–2014 年, Trimble Navigation Limited. All rights reserved.

Trimble, the Globe and Triangle logo, Autolock, GPS Pathfinder, Terramodel, and TSC2 are trademarks of Trimble Navigation Limited, registered in the United States and in other countries.

Access, CenterPoint, GX, Link, RTX, Trimble Geomatics Office, Trimble Survey Controller, Trimble Total Control, TRIMMARK, VISION, VRS, VX and xFill are trademarks of Trimble Navigation Limited.

RealWorks is a registered trademark of Mensi SA.

Microsoft, ActiveSync, Windows, Windows Mobile, and Windows Vista are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

The Bluetooth word mark and logos are owned by the Bluetooth SIG, Inc. and any use of such marks by Trimble Navigation Limited is under license.

All other trademarks are the property of their respective owners.

This document is for informational purposes only. Trimble makes no warranties, expressed or implied, in this document.

目次

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2014.10	4
一般測量	6
道路	10
トンネル	14
ソフトウェアとハードウェアの必要条件	14

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2014.10

このリリースノートでは、Trimble® Access™ ソフトウェア バージョン 2014.10についての情報をお知らせします。

Trimble Accessソフトウェアはフィールドで使用する測量ツールの数々や、オフィスおよびフィールド向けのウェブ基盤のサービスを提供します。これらのプログラムは、お買い求めになったパーツによって、コントローラ、オフィスコンピュータ、またはTrimbleがホストするサーバなどにインストールされています。

コントローラのソフトウェアとライセンスのインストール

オペレーティングシステムのインストール

新しいTrimble Tabletにはオペレーティングシステムはインストールされていません。Tabletを起動してWindows®オペレーティングシステムをインストールし、Windowsの更新を適用します。

他の全ての新しいコントローラには、オペレーティングシステムはすでにインストールされています。

ソフトウェアとライセンスの設定

コントローラをご使用になる前に、Trimble Access インストールマネージャーを使用して、アプリケーションとライセンスをインストールしてください。もし今までに:

- Trimble Access インストールマネージャーをインストールしたことがない場合は、www.trimble.com/taim からインストール情報を得てください。
- Trimble Access インストールマネージャーをインストールしたことがある場合は、自動的に更新しますので、再インストールの必要はありません。開始 / 全プログラム / Trimble Access インストールマネージャーの中から選択し、インストールマネージャーを始動してください。

ソフトウェアおよびライセンスファイルのインストールおよび更新についての詳細はTrimble Access インストールマネージャーのヘルプファイルを参照してください。

メモ - Trimble CU コントローラでは、Trimble Access バージョン 2013.00 またはそれ以降を、Trimble CU モデル3 (S/N 950xxxx) のみにインストールすることができます。Trimble CU モデル1と2には、Trimble Access以降をサポートするのに十分なメモリがありません。

バージョンの使用条件

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2014.10をインストールして起動するには、14月 2014で有効な保証契約が必要です。

Trimble Access インストールマネージャーを使用して バージョン 2014.10 をアップグレードする時、新しいライセンスファイルがデバイスにダウンロードされます。

オフィスソフトウェアの更新

バージョン 2014.10に更新した場合、オフィスソフトウェアも更新しなければなりません。この更新はTrimble Business CentreソフトウェアなどのTrimbleオフィスソフトウェアに一般測量ジョブをインポートする場合に必要です。

Trimble Access Installation Managerを使用してコントローラを更新する場合、Trimble Access Installation Manager がインストールされているコンピュータのオフィスソフトウェアも同時に更新されます。更新に使用されなかった他のコンピュータを更新するには、以下のいずれかを行います：

- Trimble Access Installation Manager をそれぞれのコンピュータにインストールし、Office Updatesを起動します。
- Trimble Access ソフトウェアのソフトウェアのTrimble Update Office Softwareパッケージを www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-84862から起動します。
- Trimbleデータ転送ユーティリティを使用します：
 - バージョン1.51以降をインストールして下さい。データ転送ユーティリティは www.trimble.com/datatransfer.shtmlからインストールすることができます。
 - バージョン 1.51をお持ちの場合は、データ転送ユーティリティの新しいバージョンを更新する必要はありません。Trimble Update Office Softwareパッケージのどれかを www.trimble.com/support_trl.aspx?Nav=Collection-84862から起動することができます。
- Trimble Business Centerソフトウェアを最新のバージョンに更新する必要があるだけでしたら、オフィスのソフトウェアを更新するのに Trimble Access Installation Manager を起動する必要はありません。必要なコンバータは現在 Trimble Accessソフトウェアを起動しているコントローラで入手でき、必要でしたら、Trimble Business Centerソフトウェアでコントローラからコンピュータへコピーすることができます。

Trimble Solution Improvement Program

Trimble Solution Improvement Programは、Trimbleのプログラムがいかに使われ、どのような問題が発生する可能性があるかなどの情報を収集しますTrimbleは、この情報をもとに、最も頻繁に使用される製品や機能の向上に役立て、問題解決のお手伝いをし、お客様のニーズにお応えします参加は任意で強制ではありません。

参加を選択すると、ソフトウェアがお手持ちのコンピュータにインストールされますそのコンピュータに、Microsoft ActiveSync® 技術やWindows Mobile® Device Centerを利用してコントローラを接続するたびに、Trimble Accessソフトウェアがログファイルを生成し、自動的にTrimbleサーバへ送ります。このログファイルには、Trimble機器の用途、特定の地理的地域内でよく使用されるソフトウェア機能、問題が発生する頻度などのデータが含まれており、Trimbleが製品の修正に役立たせて頂きます。

Trimble Solution Improvement ProgramはいつでもアンインストールすることができますTrimble Solution Improvement Programの参加中止をご希望の場合は、コンピュータのプログラムの追加と削除メニューからソフトウェアの削除を行なうことができます。

ヘルプと資料に関して

Trimble Access Help は、「文脈対応」ヘルプです。「文脈対応」ヘルプにアクセスするには、画面上部の ? をタップして下さい。

ヘルプ項目のリストが表示されます。関連項目は反転表示されています。見たい項目を開くには、その項目名をタップします。

ヘルプのPDFファイルをダウンロードするには、<http://help.trimbleaccess.com>へアクセスして下さい。アプリケーションごとに異なるPDFファイルがあります。

一般測量

新しい特長

V10カメラキャリブレーション

Trimble Accessソフトウェアでは、データを収集し、後でTrimble Business Centerバージョン3.20でV10イメージングローバーのカメラキャリブレーションを確認することができますようになりました。このプロセスでは、カメラのキャリブレーションが仕様から外れていないか評価するため画像が収集されます。カメラキャリブレーションでは、画像がジョブフォルダ内に保管されること、および当該ジョブとともにTrimble Business Centerにインポートされることが確認されます。

V10イメージングローバ磁気計キャリブレーションレコード

V10磁気計がキャリブレーションに成功したとき、またはキャリブレーションがユーザによりキャンセルされたとき、当該ジョブにレコードが書き込まれます。レコードには、キャリブレーションの対象となったV10のシリアル番号が含まれます。

Trimble TSC3のデュアルモード内蔵モデムとの併用

Trimble Accessソフトウェアでは、統合デュアルモード内蔵モデムとのTrimble TSC3コントローラの併用がサポートされています。これらTSC3コントローラは、002で終わるパーツ番号（TSC3112-002など）が付いています。お使いのコントローラのパーツ番号をチェックするには、バッテリーを取り外して、バッテリー格納部の左側面に貼り付けられているラベルで確認してください。

デュアルモードモデムは、GSMモードまたはCDMAモードで作動できます。このバージョンのTSC3は、米国のお客様向けに販売され、Verizonネットワークへのアクセス向けに具体的に設計されています。更に詳しい情報には、お近くのTrimble代理店にお問い合わせください。

平面上のポイント測定に関する機能強化

以下の機能強化が、平面上のポイント測定方式に追加されました：

- パラメータを計算した後でも、任意に、ポイント選択を変更してから、計算し直すことができるようになりました。
- 選択されたポイントが同一線上にあるものとして検出されたときは、ソフトウェア

が「選択されたポイントは同一線上にあるため、平面を形成することができません」という警告を表示するようになりました。

- 2つのポイントが選択された場合、ソフトウェアがそれら2ポイントの2Dポジションが近接している（5mm内）かどうかチェックし、これに該当するときは、「同一水平ポジションの2地点を使用して、鉛直平面を形成することはできません」という警告を表示するようになりました。

ジョブ個別の地図オプション

以下の地図オプションはジョブ個別になりました：色グラデーション、表面の三角形、鉛直オフセット表示、鉛直誇張スケール、接地平面、および表面の側面。

RTX、xFillおよびOmniSTARのための補正衛星の選択

Trimble Accessでは、Trimble CenterPoint™ RTX™サービスやxFillテクノロジー、OmniSTAR衛星ディファレンシャルサービスを使用する際、補正内容の取得に使用される衛星を選択または変更することができるようになりました。これにより、受信機ウェブユーザーインターフェース内で提供されているものと同じ機能がコントローラ上で提供されています。

現在の衛星を見るには、ステータスバー内でソリューションタイプアイコンをタップし、ステータス画面を開きます。ステータス画面は、補正衛星名を表示させます。別の衛星を選択するには、オプションをタップしてから、リストから必要な衛星を選択します。もう一つの方法としては、カスタムを選択してから、使用する周波数とビットレートを入力します。

設定に加えた変更は、次回、測量を開始する際に使用されます。補正衛星はいつでも変更できます。補正衛星の変更を行っても、測量のやり直しの必要はありません。

Laser Atlanta AdvantageへのBluetoothワイヤレス接続

Trimble Accessは、Laser Atlanta Advantage距離計へのBluetooth™ワイヤレス接続に対応するようになりました。

RTCM v3.0メッセージタイプ1029テキストメッセージ

RTCM v3.0メッセージタイプ1029テキストメッセージは、ネットワークRTK測量中にNetwork/Reference Station Status画面に表示されるようになりました。

線形コードからストリングへの名称変更

線形をキー入力する際、コードがストリングという語に置き換えられています。この変更は、線形の杭打ちを行う際に反映されます。この変更は、コードという語が杭打ちされたコードと混同されがちなことを理由に行われました。

チェーンとリンクの単位の略称

チェーン記号（距離の単位）の短縮形は「ch」になりました。

リンク記号（距離の単位）の短縮形は「lnk」になりました。

これらの単位は任意の距離フィールドにタイプ入力したり、または 単位 のコンテキストメニューから選択することができます。

解決された問題

- 保証期限:いくつかの言語で発生していた保証期限を 製品情報 画面から見るができない問題は解決されました。
- 高速フィックスポイント (Fast fix) :Fast Fixポイントが建設ポイントではなく高速ポイントとして保存される問題は解決されました。この問題は、Trimble Access 2013.42で取り込まれていました。高速フィックスポイントは建設ポイントとして保存され、初期設定ではマップに表示されません。
- レーザ距離計トリガー測定:距離計のトリガーキーを押してもレーザ測定が開始されない問題は解決されました。
- レーザ距離計ヌル角度:ヌル角度が「?」ではなく、「1e308」という値で記録されていた問題は解決されました。
- 補正されたポイント:以下の問題が、補正されたポイントにおいて解決されました:
 - 測定が開始する前に「測定が進行中」というメッセージが表示されていた問題。
 - 補正されたポイントを測定しようとしたとき、チルトセンサのキャリブレーションを行うよう促された場合、チルトセンサのキャリブレーションの終了とともに測定が開始されていた問題。ポイントの測定画面に自動的に戻り、ポイントの測定を開始するには、開始をタップしなければならなくなりました。これは、測定の開始時点で、測量技師が実際に測定したい場所に立ってられるようにするための工夫です。
 - 補正されたポイントを測定しようとした際、キャリブレーションを行わずにポイントの測定画面に戻っても、キャリブレーション画面がまだ開いている場合、チルトセンサのキャリブレーションを行うよう促す表示が正しく表示されていなかった問題。
 - 「重複ポイント」の問題:「許容範囲外」のメッセージが、測定・補正されたポイントと、ジョブデータベース内になる同じ名前のポイントとの間で、誤った差異を表示していた問題は解決されました。
- BluetoothポートがGPSサーチ用に利用可能になりました:GPSサーチ用に利用可能なポートのリストからBluetoothが除外されていた問題が解決されました。この問題は、Trimble Access 2014.00で取り込まれていました。
- GNSSポイントの再測定:再測定により、測定がキャンセルされた後も、チルトが自動測定されるポイント以外のGNSSポイントを対象に新たな測定が開始されない問題が解決されました。
- R10受信機の接続:Trimble Accessが、Trimble R10受信機の起動中に断続的に接続した後に、接続が失われていた問題は解決されました。この問題は通常、Trimble Accessが受信機の接続準備中に接続しようとしたときに発生していました。
- 受信機ファームウェアバージョン:受信機設定画面は、ファームウェアバージョンおよびファームウェア保証有効期限両フィールドを表示するようになりました。旧バージョンでは、これらフィールドがそれぞれソフトウェアバージョン、ソフトウェア保証有効期限と誤表示されていたため、お客様に混乱が生じていました。
- RTX利用契約の開始日:受信機設定画面は、RTX利用契約の開始日を表示するようになりました(設定されている必要があります)。

- xFill利用契約の開始日:受信機設定画面は、xFill利用契約の開始日を表示するようになりました(設定されている必要があります)。
- **固定局の交換:**固定局の交換画面を使用し、RTK測量中に別の固定局に交換しようとする、アプリケーションに「新しい固定局が検出されました」というメッセージが誤って表示され、選択された固定局への変換プロセスが完了しない問題は解決されました。
- **統合測量:**トータルステーション測量と、GNSS測量との間の切り替えが、必ずしもうまく行かない問題が解決されました。
- **座標系の回転値:**Trimble Accessが、インポートの際、 $359^{\circ} 59' 59''$ と 360° の間の回転値を受け付けられない問題が解決されました。
- **タブレットのCAPSロック:**Trimble Tabletで、キーボードが非表示になるたびにCAPSロックがリセットされていた問題は解決されました。CAPSロックがオンの状態で非表示にした場合は、オンのままの状態が維持されるようになりました。
- **3Dマップ:**3Dマップに関する以下の問題が解決されました:
 - マップの隅に表示されるNE軸アイコンの向きが、マップのビューに合わせて更新されないことがある問題。
 - 関連付けられたワールド(.wld)ファイルのピクセル幅がマイナスの値のとき、3Dマップが正しく画像のレンダリングを行わない問題。旧バージョンでは、画像はひっくり返されていました。
 - 一部の.jpg画像が、3Dマップ内で正しく表示されていなかった問題。
 - 2つ以上のラスターイメージをマップの背景画像として選択しても、各画像がマップ内に表示される代わりに、同一画像が繰り返し表示されていた問題。
 - 3Dマップにrxlファイルが含まれているとき、接地表面が表示されない問題。
 - 鉛直線形の長さが水平線形よりも短い場合に発生していた、rxlファイル内の鉛直線形の表示に伴う問題。旧バージョンでは、鉛直線形が存在しない場合、ソフトウェアが接地平面の高さを使用して線形を描き続けていました。この問題は、水平線形が鉛直線形と一致するところでは、水平線形を描くことにより、解決されました。
- **Display of non-European language characters on the Tablet:** An issue where some characters were not displayed correctly in the *V10 Panorama* form and in the *3D Map* for non-European language installations of Trimble Access is now resolved.
- **アプリケーションエラー:**以下のいずれかを行ったときに、時折のアプリケーション・エラーが見ることがなくなりました:
 - 元のジョブとして現在のジョブを、同名のポイントを複数持つ別のジョブにリンクさせる。
 - 測定が進行中にGNSS測量を終了する。
 - 縮小セクション内にある重複する名前のポイントを含む.jxlファイルをインポートする。
 - 設定 / 接続画面内にいるときに、Escソフトキーを2回以上タップする。
 - 無線機設定を編集集中にGNSS受信機への接続が切断される。

道路

新しい特長

道路測設のグラフィック表示

TrimbleまたはLandXML道路用として、平面および横断面の両ビューを伴った新しいグラフィック選択画面が、杭打ち画面の前に現れます。グラフィック選択画面を使用すると、GENIO道路の場合に使用される既存の方式と同様の形で、測量方式をグラフィック表示により有効にできます。

グラフィック表示により測量方式を有効にすると、以下の利便性があります：

- 有効にされる測量方式は、ユーザが選択した内容によって決定されるため、より直感的なワークフローが得られる。ドロップダウンリストから方式を選択する必要がなくなる。
- 地図から、またはコントローラ上の矢印キーを使用して、杭打ち対象の位置を選択できる。
- 平面ビューまたは横断面ビューから、ユーザが適用した建設オフセットとともに、杭打ち対象としてユーザが選択した位置をグラフィック表示で見ることができる。横断勾配または路床が適用される場合、その結果となる位置を見ることができる。これはすべて、杭打ちを開始前に確認できるため、ユーザは正しい杭打ち結果が得られると確信できます。
- ある地点を選択するのにコントローラ上の矢印キーを、杭打ちが行われたある地点を測定および保存するのにEnterキーを、それぞれ使用する場合、2つのキーだけを押しただけで杭打ちが行えます。

道路の測量を初めて行うときは、ソフトウェアは、ユーザが使用したい選択方式を選ぶように促すプロンプトを表示します。従来のメニュー選択か、または新しいグラフィック表示式の選択方式を使用するにはグラフィック表示を選択します。選択されたオプションは、その後すべての測量に使用されます。選択方式を変更するには、道路を選択する際にオプションソフトキーをタップします。

以下の表は、各測量方式を有効にする方法を説明しています：

測量方法	グラフィック表示による有効化
道路を基準にした位置の測定時	選択画面で、何も選択されていない状態で、道路を基準にしたユーザ位置の測定を開始する準備ができています。
ストリングを基準にした位置の測定時	平面ビューから、当該ストリングを表している線画をタップします。横断面ビューが利用可能です。横断面ビューでは、正しいストリングが選択されていることを確認できます。 別のストリングを（平面または横断面ビューから）選択するには、矢印キーをお使いになるか、お使いのコントローラで利用可能なソフトキーをお使いください。もう一つの方法として、グラフィック表示領域内をタップアンドホールドし、リストからストリングを選択しま

す。
 ユーザ位置に最寄りのストリングを基準に、ユーザ位置を測定するには、平面ビューから、グラフィック表示領域内をタップアンドホールドしてから、最寄りのストリングの測定を選択します。

ストリング上の局の杭打ち	<p>平面ビューから、杭打ち対象となるストリング上の局を表す円をタップします。</p> <p>横断面ビューが利用可能です。横断面ビューでは、正しい地点が選択されていることを確認できます。</p> <p>(平面または横断面ビューから) 選択を変更するには、矢印キーをお使いになるか、お使いのコントローラで利用可能なソフトキーを使用して別のストリングおよび/または別の局を選択します。もう一つの方法として、グラフィック表示領域内をタップアンドホールドし、適切なリストからストリングおよび局の値を選択します。</p>
追加ポイントの杭打ち	<p>平面ビューから、ポイントを表す円をタップします。</p> <p>横断面ビューが利用可能です。横断面ビューでは、正しい地点が選択されていることを確認できます。</p> <p>もう一つの方法として、グラフィック表示領域内をタップアンドホールドし、追加ポイントの杭打ちを選択します。</p>

メモ - グラフィック表示による選択オプションを使用中は、「線形からの法面」方式は利用できません。

現在の選択内容を消去するには、平面ビューから、以下のうちのいずれかを実行します:

- 何もない部分をタップします
- 選択内容をもう一度タップします

平面または横断面ビューのグラフィック表示領域内をタップアンドホールドし、以下を行う:

- 建設オフセットを定義する
- 高度を編集または再読み込みする

横断面ビューのグラフィック表示領域内の線をタップし、横断勾配または路床を定義する。

詳しい情報については、Roadsヘルプを参照してください。

路床

TrimbleまたはLandXML道路については、特別な路床計算ツールを使用し、横断面内の既存線から平行にオフセットされる路床を定義できるようになりました。続いて、路床が既存線に交差するところの地点を、杭打ち対象として選択できます。

このツールをグラフィック表示で有効にするには: 新しいグラフィック表示による選択画面(横断面ビュー)で、既存線をタップしてから、ポップアップメニューから路床の定義を選択します。

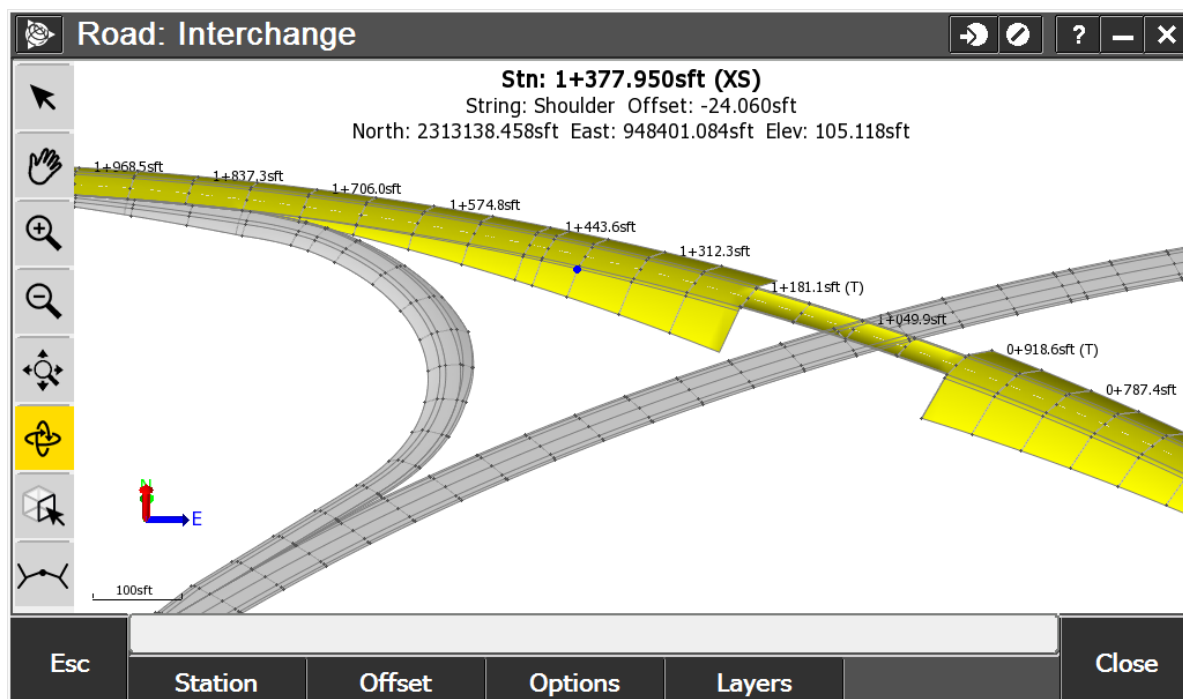
メモ - 従来のメニューオプションを使用して測量方式が選択されている場合、路床を追加できません。

Trimble Tabletの3Dレビュー

Trimble Tabletをお使いの場合、TrimbleまたはLandXML道路を3Dでレビューできるようになりました。このビューには、旧バージョンで提供されていたすべてのレビュー機能とともに、以下の改善点が含まれています：

- 3Dで道路全体を見たり、道路を回転させたりできるほか、さまざま視点から設計を見たりチェックしたりできます。
- 他の道路を基準にし道路を表示できます。交差点や立体交差での道路のずれに関連した問題が、3Dで素早く明白になります。Trimble道路のみでご使用になれます。
- 選択された地点の詳細を確認するためブラウザ（閲覧）する必要がなくなりました。この情報が画面上部に表示されるようになったためです。
- 道路の表面には、以下の表示オプションがあります：
 - 陰影モデル
 - 色グラデーション
 - 面の三角形付き色グラデーション
 - 面の三角形のみ
- 横断面の表示時に、各横断面が画面全体に表示し、横断面を最も良く見ることができます。または、縮尺を固定した状態で、最も幅の広い横断面が画面全体に表示されるようにすることもできます。このオプションでは、横断面が互いを基準にして表示することができます。

下図は現在の反転表示されている道路と交差点です：



道路 / ジョブメニューからアクセス可能な3Dマップからも、道路を3Dで見ることができます。道路の3Dビューは、ライセンスをお持ちのユーザの場合、「一般測量」マップからも利用可能です。

メモ - 第一世代のTrimble Tabletでは道路を3Dでレビューすることはできません。

ワークフローの改善

以下のワークフロー上の改善がなされています：

- 「ファイルからのポジション」の杭打ちオプションが、当該オプションの性質をよりよく表すため「追加ポイント」に名称変更されました。追加ポイントは、キー入力したり、ファイルからインポートすることができます。
- 追加ポイントのファイルをインポートするに当たり、ファイルに高度ゼロのポイントが含まれ、かつ道路が鉛直線形を有している場合、ゼロ高度のポイントに関しては、ポイントの局の値にて鉛直線形の高度を使用するオプションが利用できるようになりました。
- 定義済みの追加ポイントが既に存在するときは、追加ポイントをインポートできるようになりました。旧バージョンでは、ポイントをインポートするには、以前に道路に追加された追加ポイントが存在しないことが条件でした。排水システムのキーとなる位置や道路の横断面などのような設計特徴の定義に使用するポイントの追加ポイントは水平線形、または鉛直線計を基準として定義されます。ポイントは、キー入力したり、インポートしたりすることができます。
- テンプレート構成要素を定義する際、コードがストリングという語に置き換えられています。この変更は、以下を行うときに関係してきます：
 - 道路のレビュー
 - 道路の測量
 - 道路の報告

この変更は、コードという語が杭打ちされたコードと混同されがちなことを理由に行われました。また、ストリングという語は、路肩や縁石、その他同様の道路事項を表すのに、より適しています。

- 最後のテンプレート要素をサイドスロープとして設定 オプションは 最後の横断面ポイントをサイドスロープとして設定という名前になりました。このオプションはLandXML道路の定義や測量時に使用できます。LandXMLフォーマットはサイドスロープに対応していませんが、LandXMLファイルの各横断面記録の最後のポイントがサイドスロープを表す場合は、このオプションを使用してサイドスロープを定義することができます。

解決された問題

- 杭打ちされたポジションの表示:局およびオフセットごとに杭打ちを行う際、杭打ち済みポジションが表示されていなかった問題が解決されました。これは、道路が水平線形を有している場合のみの問題でした。
- アプリケーションエラー:以下のいずれかを行ったときに、時折のアプリケーションエラーを見ることはなくなりました：

- 遷移タイプを変更しようとする。十分に構築されていない遷移を道路が含んでいて、かつBloss曲線か、Korean Cubic Parabolaのどちらかに変更しようとした場合だけに発生する問題でした。これら遷移タイプは、部分的に構築されたらせんをサポートしません。今回のバージョンアップにより、部分的に構築された遷移を道路が含んでいる場合、これら遷移タイプを選択できなくなりました。
- 水平線形が開始地点の構成要素のみにより定義されているときに、道路を測量しようとする。

トンネル

新しい特長

解決された問題

- アプリケーションエラー:遷移タイプを変更しようとしたときの、時折のアプリケーションエラーは、今回のバージョンアップにより、見られなくなったはずですが。十分に構築されていない遷移をトンネルが含んでいて、かつBloss曲線か、Korean Cubic Parabolaのどちらかに変更しようとした場合だけに発生する問題でした。これら遷移タイプは、部分的に構築されたらせんをサポートしません。今回のバージョンアップにより、部分的に構築された遷移をトンネルが含んでいる場合、これら遷移タイプを選択できなくなりました。

ソフトウェアとハードウェアの必要条件

Trimble Access ソフトウェア バージョン 2014.10 は、以下にあるソフトウェアとハードウェア製品との通信に最適です。このソフトウェアは以下のバージョン以降のソフトウェアとも通信することができます。

Trimble ソフトウェア	バージョン
Trimble Business Center (32-bit)	2.97
Trimble Business Center (64-bit)	3.20

Trimble 受信機	バージョン
Trimble R10	4.84
Trimble R8-3, R8-4	4.84
Trimble R6-4, R6-3	4.84
Trimble R4-3, R4-2	4.84
Trimble R7 GNSS	4.84
Trimble R5	4.84
Trimble NetR9	4.84
Trimble GeoXR	4.55
Trimble R8-2, R6-2, R4-1	4.64
5800 II	4.64
5700 II	4.64

Trimble 機器	バージョン
Trimble V10イメージングローバー	E0.2.62
Trimble VX™ Spatial Station	R12.4.17
Trimble S8トータルステーション	R12.4.17
Trimble S6トータルステーション	R12.4.17
Trimble S3トータルステーション	M2.2.9
Trimble M3トータルステーション	1.30 2.10

最新のソフトウェアとファームウェアのバージョンについては、下記もご参照ください。

<http://trl.trimble.com/dscgi/ds.py/Get/File-93082/Survey%20Software%20and%20Firmware.pdf>.

対応するコントローラのオペレーティングシステム

Microsoft Windows Mobile Version 6.5 Professionalを搭載したTrimble TSC3コントローラは、Trimble Accessソフトウェア バージョン1.8.0から2011.10を実行することができます。

Microsoft Windows Mobile Embedded Handheld 6.5を搭載したTrimble TSC3コントローラには、Trimble Accessバージョン2012.00以降が必要です。